



Seisen
Junior & Senior
High School

清泉女学院 中学高等学校

〒247-0074 神奈川県 鎌倉市 城廻 200
TEL 0467-46-3171 FAX 0467-46-3157 http://www.seisen-h.ed.jp

カイロス

καίρος

第72号

2020年12月22日発行

新しい伝統へ

変化というチャンス



教頭 小川 幸子

新型コロナウイルスの流行に翻弄された二〇二〇年が終わろうとしています。今まで当たり前前に行ってきたことができなくなり、多くの場面で不自由やストレスを感じた一方、テクノロジーの進歩を身をもって学んだ一年でした。そういう意味では、新型コロナウイルスは私たちを止めたのではなく、新時代への歩みを加速させたと言えます。

さて、清泉では数年前から、新時代に求められる教育を見据えて、リノベーション (renovation) を計画してきました。イノベーション (innovation) と異なるのは、ゼロから始めるのではなく、清泉が築いてきた伝統を土台にしている点です。それがいよいよ二〇二一年の四月から実行されます。

大きな柱は三つ、①六十五分授業、②土曜日の活用、③三学期制への移行です。四月に校長先生から学校全体にお話しがありました。ここで改めてその目的を説明します。

二〇二一年度から中学校では新課程が始まり、また大学入試はセンター試験に代わって、「共通テ

スト」が施行されます。今、なぜ日本が教育改革を進めているかと言えば、日本や世界を取り巻く状況が大きく変わる中、それに適応して活躍できる人を育てていかなくては日本の未来が危うい、という強い危機感があるからです。科学技術の急速な進歩は便利な反面、予想外の問題も引き起こします。また、グローバル化や少子高齢化、自然環境の変化など、人類にとって未経験の問題に対処し解決を目指すためには、ただ教えられたことを覚えて知識を増やすだけでなく、それを活用し実際に行動に移すことが必要です。言うのは簡単ですが、そこには論理的思考、クリティカル思考、創造性、コミュニケーション能力、他者への共感など、様々な力が関わってきます。今回、清泉が目指すリノベーションは、まさにそのような力を育むためのものです。

六十五分授業、と聞くと詰込み型の教育が連想されるかもしれませんが、学校の意図はむしろ逆で、自ら考えてじっくり学ぶための授業時間です。二十分余裕ができることで、今まで十分にできなかったことが可能になります。基礎学習の徹底と定着はもちろんです。例えば、提示された問題や課題についてクラスメイトと意見交換する、実験の考察をじっくり行う、テーマについて

ICTデバイスを使って調べたのち自分の意見をまとめる、グループごとにプレゼンテーションをして互いに批評する、といった発展的な学びが授業内でできるようになります。さらに、他者との協働を通して自分の視野を広げ、考えを深めることもできます。これらの活動は今までもある程度行われてきましたが、もっと深く掘り下げて学ぶため、六十五分授業になります。

また土曜日は基本的に月二回登校し、総合的な学習および探究活動を行います。例えばライフオリエンテーションの事前学習、My Story Project、卒業生や外部の方の講演会、各種ワークショップ、学年のテーマに基づく活動など、授業とは違う観点からの学びを進めます。教科という枠組みにとらわれず幅広く学び吸収することを通して、最終的には自分の進路や社会での生き方を探究します。

三学期制への移行は、学校の行事や試験日程を見直し検討した結果、私たちの生活に合ったスケジュールへの変更となります。

今まで慣れ親しんできたやり方を変えるのは大きなチャレンジですが、清泉がずっと大切にしてきた理念が変わるわけではありません。教職員一同、より良い学校を目指して新しい伝統を作り上げる機会と捉え、生徒と一緒に進んでいきたいと考えています。

最後に、神様の恵みのもと、皆様が平和なクリスマスと新年を迎えられますよう、お祈りしています。



- … INSIDE …
- ② 宗教部「クリスマスメッセージ★今年だからこそ…」・「問うことの楽しみ」国語科 構大樹先生
 - ③ 2019年度生徒会報告・清泉百花百景 71期高井薫子さん
 - ④⑤『私たちのICT体験記』～未来の可能性が広がった！～
 - ⑥ 学生生活進行形 千葉大学 68期福田はづきさん
 - ⑦ 短信・賞・異動